

再生可能エネルギー拡大は経済成長に繋がる

◆2015年、世界の再生可能エネルギーの発電容量が最大規模で増加中

国際再生可能エネルギー機関（IRENA, 本部 UAE アブダビ）は16年4月「再生可能エネルギー容量に関する世界統計2016年」を公表した。世界200カ国・地域の再生可能エネルギーの発電設備容量は15年に152GW（ギガワット： 10^9 W）増え、1,985GWとなり、年率8.3%の増加となり過去最高の伸びになった（図1）。

世界で石油やガスの価格が下落している。しかし、再生可能エネルギーでは導入費用が安価になり、また、経済、社会、環境の面から導入の要請が強まっており、世界で再生可能エネルギーの発電施設が拡大している実態が示された。

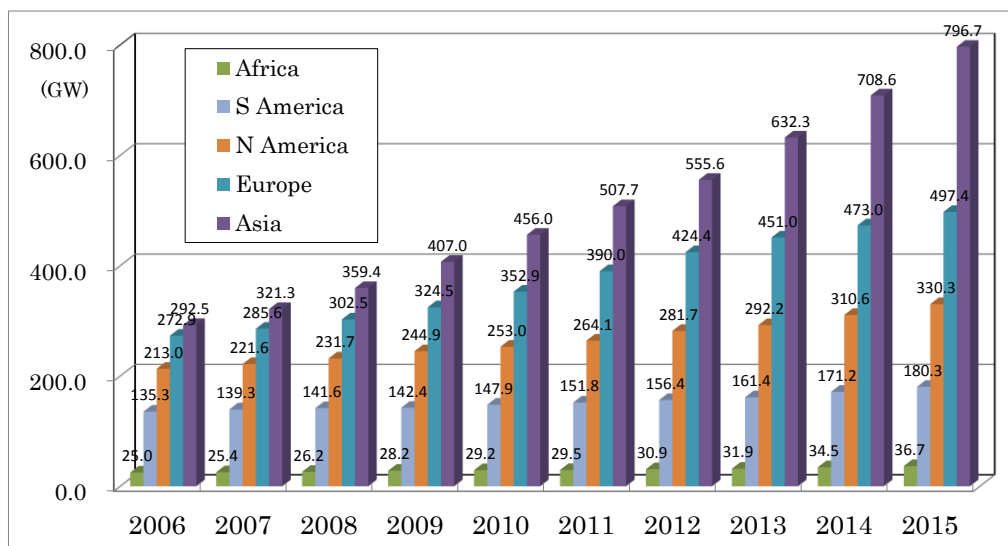


図1 世界主要地域の再生可能エネルギーの発電設備容量
 (出典：「RENEWABLE CAPACITY STATISTICS 2016」, IRENA, 2016.4)

15年の世界の再生可能エネルギーの発電設備への投資額は2,860億ドルで過去最高となり、世界の再生可能エネルギーの設備容量はこの5年間で5割弱増えている。それらのうち、風力発電と太陽光発電の増加が大半を占める。

陸上風力発電は導入費用が10年比で45%低下し、設備容量は前年比で17%増えた。太陽光発電の導入費用は10年比で80%低下し、設備容量は26%増加した。15年では地域別の投資では中米やアジアの新興国の増加率が高かった。再生可能エネルギーは経済成長の原動力の一つにもなっていることも示唆される。

◆再生可能エネルギーの導入はほとんどの国の経済成長につながる

また IRENA は、16 年 1 月に再生可能エネルギーの普及がマクロ経済に及ぼす影響を GDP、福祉、雇用などの観点から世界規模で分析した報告書「Renewable Energy Benefits :MEASURING THE ECONOMICS（再生可能エネルギー導入の経済効果）」を公表した。再生可能エネルギー導入が気候変動を緩和するだけでなく、経済成長にも寄与するとした。図 2 に 10 年から 30 年の主な国の GDP 成長率の変化を試算した結果を示す。エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率を 2 倍に増やした場合が Remap である。空調機器や輸送機器等の電化を促進した上で再生可能エネルギー比率を 2 倍に増やした場合が REmapE である。

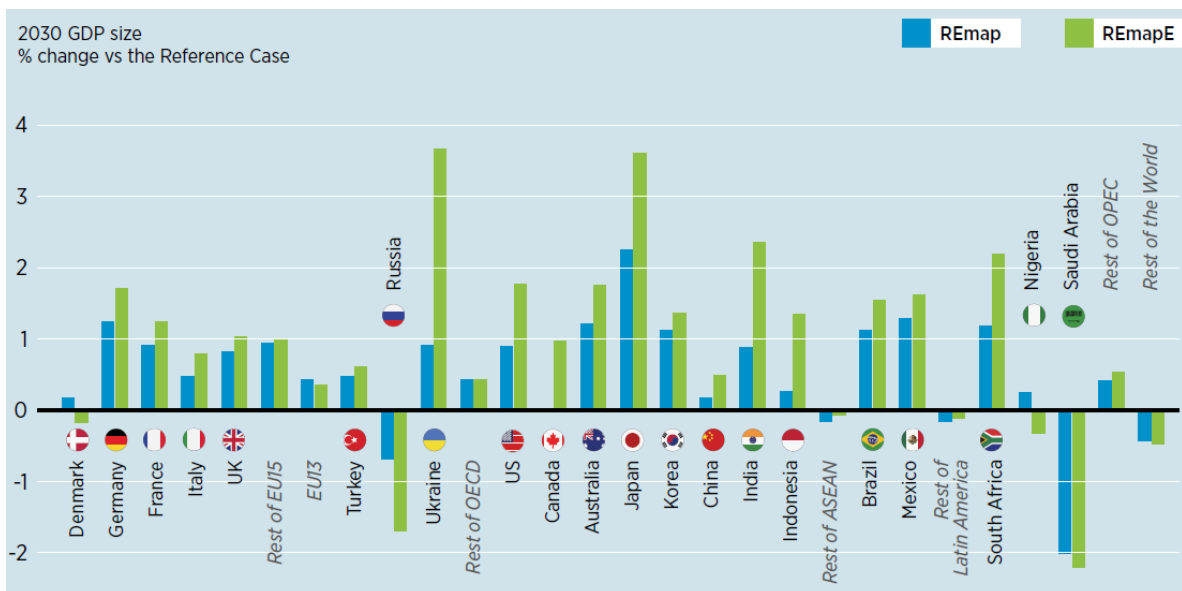


図 2 各国の再生可能エネルギー導入量増加による GDP 成長率予測 (2010 年→2030 年)
 (出典:「Renewable Energy Benefits: Measuring The Economics」, IRENA, 2016.1)

再生可能エネルギーを推進するドイツは自国で既に試算していた。ドイツでは再生可能エネルギーを拡大した場合としない場合の経済成長や生産性に関する調査を既にドイツ経済研究所で 11 年に行い、拡大した場合の 30 年のドイツの実質 GDP は、しない場合と比較し 2.9% 高いと予測した。こうした結果を基にドイツでは長期的戦略を定め、再生可能エネルギーを促進している。

日本では、再生可能エネルギーはコストも高く、普及させることは産業の競争力を損なわせ経済的損失につながるという考え方があった。エネルギー中長期政策を再考すべきであろう結果が国際機関から示されたことになる。 【新井喜博】